

教育学・心理学	【代表的な研究テーマ】
<b>keyword</b>	<input type="checkbox"/> 移民社会の学校教育の課題と対応 <input type="checkbox"/> 多様な文化に対応できる教師の育成
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 比較教育学</li> <li>■ 移民社会の学校教育</li> <li>■ 多文化教育</li> <li>■ 多文化教師教育</li> <li>■ カナダの教育</li> </ul>	<b>課題解決に役立つシーズの説明</b>
	<p>■ 多文化時代の子どもへの教育と教師教育</p> <p>グローバル化が進む現在、諸外国と同様に、日本も社会の多文化化に関わる大きな変化を経験しています。日本各地の学校には、外国人児童生徒や外国にルーツのある子どものように多様な生育環境・言語・文化を持つ子どもが在籍するようになっていきます。それに伴い学力格差、差別・いじめ、中途退学や不登校といった学校教育における様々な課題が指摘されています。</p> <p>私の研究課題は、移民や外国人労働者の受入れにより多文化社会を形成してきた諸外国(特にカナダ)における学校教育および教師教育の実践と課題を考察し、今後ますますの社会の多文化化が予想される日本の学校教育への示唆となる理念や実践について検討することです。私の研究では、専門分野である比較教育学の手法を用いて、諸外国の教育事象との比較考察を行い、国際的視野から日本の教育の特性を客観的に把握し、再検討することを目指しています。具体的には、以下の二つの視点から研究を進めています。</p>
<b>児玉 奈々</b> Nana Kodama	<p>【1】 移民社会の学校教育の課題と対応</p> <p>カナダ、アメリカ、オーストラリアなどの移民社会である諸外国の学校教育が、どのような課題に直面し、どのような理念に基づいて課題に対応しようとしているかについて考察する。</p>
国際センター 教授	<p>【2】 多様な文化に対応できる教師の育成</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門分野</li> <li>・ 比較教育学</li> <li>・ 国際教育</li> <li>● 略歴</li> <li>・ 1997年 早稲田大学教育学部卒業</li> <li>・ 2000年 早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了</li> <li>・ 2002～2004年 日本学術振興会特別研究員</li> <li>・ 2003年 早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了 博士(教育学)</li> <li>・ 2004年 鹿児島純心女子大学国際人間学部 専任講師</li> <li>・ 2008年 滋賀大学国際センター 准教授</li> <li>・ 2016年 滋賀大学国際センター 教授</li> <li>・ 2017年 滋賀大学教育学系教授</li> </ul>	<p>様々な文化的背景を持つ子どものニーズに対応し、教育活動を進めることができる教師を育成するために、移民社会である諸外国の教員養成機関や現職研修の場でどのような取り組みが行われているかについて考察する。現在、教育学部生や教職者が多文化対応能力を習得・向上させていくための方法と課題について、カナダの事例を用いて比較考察を進めている。</p> <p>現在の研究課題に関する主な研究業績は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児玉奈々「教科教育における文化に関連する教育(culturally relevant education)理論 –日本における文化的多様性を前提とした教科教育の展望–」『滋賀大学教育学部紀要』第 68 号、2019 年刊行予定(受理済)。</li> <li>・ 児玉奈々『多様性と向きあうカナダの学校—移民社会が目指す教育』東信堂、2017 年。</li> <li>・ 児玉奈々「カナダ・オンタリオ州の一般教員による英語の指導が必要な子どもの教育への関与」『カナダ教育研究』No.14、2016 年、13-32 頁。</li> <li>・ 児玉奈々「海外留学による多様性に対応できる教員の養成—カナダの教員養成系大学の海外教育実習の考察を通して—」『滋賀大学教育学部紀要』第 65 号、2016 年、159-172 頁。</li> <li>・ Nana Kodama (2015). Teacher education and culturally diverse classrooms: A comparative analysis of Japan and Ontario, Canada. In: R. DePalma, D. B. Napier, &amp; W. Dze-Ngwa (Eds.). Revitalizing Minority Voices: Language Issues in the New Millennium (pp.91-110). Rotterdam: Sense Publishers.</li> <li>・ 児玉奈々「学校設置による多様性活用の実態と展望—カナダのアフリカ中心主義学校の開設の背景から—」伊井義人編著『多様性を活かした教育を考える七つのヒント:オーストラリア・カナダ・イギリス・シンガポールの教育事例』共同文化社、2015 年、74-93 頁。</li> </ul>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 所属学会</li> <li>・ カナダ教育学会</li> <li>・ 日本比較教育学会</li> <li>・ 日本国際教育学会</li> <li>・ 日本カナダ学会</li> <li>・ 日本学習社会学会</li> <li>・ 日本教育学会</li> <li>・ Comparative Education Society of Asia</li> <li>・ Canadian Society for the Study of Education, Comparative and International Education Society in Canada</li> </ul>	<b>企業・自治体へのメッセージ</b>
<p>【連絡先】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● E-mail アドレス</li> <li>nana@edu.shiga-u.ac.jp</li> </ul>	<p>外国人児童生徒等の多様な文化を持つ子どもの教育に関わる施策に取り組んでいる自治体と、私の研究成果や諸外国の移民社会の学校教育に関わる情報を共有させていただきます。</p>